

中国・大別山と東赤石山オンファス輝石の赤外 OH 伸縮振動バンド

Infrared OH stretching bands for omphacites from Dabie Shan and Higashi Akaishi

石田 清隆[1]; 上原 誠一郎[2]

Kiyotaka Ishida[1]; Seiichiro Uehara[2]

[1] 九大・院・比較社会文化; [2] 九大・理・地惑

[1] Grad.School.Social.Cul.Stud.,Kyushu Univ; [2] Earth and Planetary Sci. Fac. Sci. Kyushu Univ.

中国・大別山と東赤石山のオンファス輝石の赤外 OH 伸縮振動バンドを測定し、化学組成との関連を調べた。3580cm⁻¹を境にして 3770~3580cm⁻¹間の高波数側にみられる 2 ないし 3 本の弱い吸収バンドと、3580~3200cm⁻¹間の低波数側にみられる 2 ないし 4 本の吸収バンドが観測された。四国産のスペクトルは、低波数側の最初のバンド、すなわち 3525cm⁻¹に中心を持つバンドが、大別山のものに較べて強い吸収であるのが特徴である。EPMA(EDX)による化学分析値およびメスバウアースペクトル分析では、四国産ではエジリン組成が多いが、大別山のものは、鉄イオンは 2 価が多く、エジリン組成に乏しい。